

職員による自己評価

A 環境面

- ・ 1日2回の掃除を行っているので、活動空間は清潔である。
- ・ 活動の雰囲気がわかる写真をホームページへ掲載した。
- ・ スペースは十分に確保されている。
- ・ 情報伝達の支援として、絵カード、写真カードが足りていないと思う。ない場合は、文字で代用している。伝わらない児童もいると思う。
- ・ 義務ではないところでもあるので、第三者評価は実施していない。
- ・ PDCA の理解がされていない。何がこれに当たるのか伝えていく必要を感じた。

(放デイ)人員配置基準を満たしていても、質の高い支援、リスク管理を考えると人員が足りていない。

- ・ 環境整備に対して、職員間で取り組むに差がある。
- ・ 職員の質向上の為に、研修の機会は確保されている。

B 児童への支援内容

- ・ 活動プログラムはチームで行えていない。常勤のみが作っている。話し合える場があると良い。
- ・ 支援開始前には必ず打ち合わせをし、児童の近況、支援内容、役割分担などの確認を行っている。
- ・ 支援後の振り返りはほとんど行えていない。多機能型の為、時間の作りにくさがある。

ファイルへの記入での対応が主になっている。

- ・ 支援後ミーティングは行えていないが、会議、日誌を通して共有できている。
- ・ 個別支援計画書に沿った支援が行われている。
- ・ 今の段階で適切と思うアセスメントツールの使用は出来ている。
- ・ 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証、改善につなげている。

(放デイ)プログラムが固定化されている。

- ・ 毎月の会議で支援、計画書の見直しができている。

C 事業所からの情報発信

(児発)園児との交流は公園に行った際、無理のない範囲で行っている。

- ・ 関係機関との連携は行っているが、「わからない」と回答している人が多い。どういう事を指すのかが伝わっていない可能性あり。
- ・ 主治医、協力医療機関との直接のやりとりはないが、緊急連絡カードを作成し、細かく記入はしてもらっている。

(児発)緊急性の高い児童の受け入れ、気がかりな点のある児童の相談対応を行っている。

(児発)移行支援は必要に応じて行っている。

- ・ 家族支援プログラムの提供は行えていない。
- ・ 問 26,27 は医ケア児だけの事として回答している人がおおいのでは。
- ・ 問 28、29 の回答にバラつきがある。移行支援に対する共通認識が足りないのかも。
- ・ 問 30 は放デイのみで働いている方には馴染みがないと思われる。
- ・ 地域自立支援協議会に参加しているが、把握されていない。協議会の説明が必要。
- ・ 地域療育センターとの連携は出来ている。

D 保護者への説明責任・信頼関係

- ・ 父母会・おやつパーティーを実施し、親睦の場がある。
- ・ 父母会活動は望まない人もいる。保護者会開催までであるが、連携まで行っていない。
- ・ 保護者の困りごと、悩み事を聞いて、相談、助言支援を行っている。
- ・ 送迎時、面談時、来訪時など日頃から保護者と子供についてのやりとりが出来ている。
- ・ 地域に開かれた事業運営は事業所として何が出来るのかわからない。望まない家庭もある。
- ・ 保護者連携は行えていない。
- ・ 個人情報に十分注意している。
- ・ 契約時の説明が行えている。

E 非常対応

- ・ ヒヤリハット事例等は共有が出来ている。
- ・ 虐待防止のための職員研修機会は確保されている。
- ・ 事前に服薬や発作などの状況を確認している。

(放デイ)毎月、防災訓練を行っている。

- ・ 防災訓練は毎月行っているが、屋上避難など高い場所への訓練では、肢体不自由のお子様が出来ていない。大きい児童となると職員の負担も大きく、腰痛やケガになる恐れも考えられる為、イメージ作りだけになっている。
- ・ 日々、毎月の共有や PDCA によって業務に支障は出ていないが、マニュアルとしては不足していると感じる。

(その他)会議で周知、回覧を回っている案件に対しても未回答、いいえにチェックを入れている人がいる。職員意識、認識の差が見受けられる。

保護者による評価

A環境面

(児発)預かり時間が短い

(児発)忙しそう

(共通)活動スペースは十分で清潔である

(放デイ)わが子は発作の持病を抱えており、発作対応のプラスの配置が難しいと言われ、家族が送迎対応を行っている

(放デイ)人員は十分ではない

B 児童への支援内容

(共通)連絡帳を丁寧に、細かく様子を伝えてくれる

(共通)電話連絡などで細かく話してくれる

(放デイ)おやつの手作り・果物の提供への評価が高い

(共通)支援計画書に沿って療育を行っている

(放デイ)移行支援、同年代の子どもと積極的な関わり、地域支援は十分とはいえないが、難しい面もある

(放デイ)プログラムの固定化

(共通)ガイドラインの説明の評価が改善された

(共通)障害のない子どもと関わる機会として、足りていない評価があるが、必要と感じていない意見も多い

(共通)子どもが毎週、楽しみにしている

(児発)苦手なことでも少しずつ取り組めるようにしてくれる

C 事業所からの情報発信

(共通)困った事があればすぐに相談に乗ってくれる

(児発)療育的観点からのアドバイスが足りない

(共通)家族への研修・育児支援は行われていないが、機会があれば受けたいと思う

(共通)父母会の状況が伝わっていないと感じている方がいる

(児発)留守番対応の時間帯があるので、タイムリーな相談が出来ない事もある

(共通)保護者同士の連携支援はない

D 非常対応

(児発)防災訓練をしている事が伝わっていない

方がいた。途中の新規児童か？

(共通)感染症が発生した時の連絡・対応を

しっかり行ってもらえている

(共通)マニュアル説明をされた事はない

職員による自己評価

保護者による評価

A環境面

B児童への支援内容

C関係機関との連携

D保護者への説明責任・信頼関係

E非常対応

*別紙記載

A環境面

B児童への支援内容

C事業所からの情報発信

D非常対応

*別紙記載

事業所内での分析

【共通点】【相違点】

- ・大きな差はない。
- ・保護者の方からは良い評価を頂けている。
- ・アンケート項目が共通してはいないので、見出すことはできない。
- ・職員は良い、悪いを捉えて、評価に反映されている。
- ・できているとわからない、未回答票に差がある項目もあり、会議・回覧で周知を図っていても職員の意識、認識の差が見受けられる。
- ・説明不足は補っていける。

分析・検討してみて…

事業所の強み

- ・清潔
- ・児童のアセスメントができています
- ・支援の見直し、共有が出来る
- ・保護者との関係も良好で、助言、相談にのって対応できる職員が多い。
- ・事業所内研修の機会が多い。

事業所の改善点

- ・留守番電話にする時間帯の見直し
- ・保護者同士の連携支援
- ・人員不足への取り組み
- ・アンケートの回収率を上げる。

事業所の改善への取り組み

- ・留守番電話にする時間帯を減らし、保護者の方が相談しやすい環境を作る
- ・保護者会とは別に座談会を企画し、気軽に話が出来る場を提供する
- ・学生の実習生を受け入れ、障害児者支援への理解や興味・関心のある人材の育成につなげる

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

回収率を上げたいが、記名提出でも良いのか。メールでの回答を行っている事業所もあり、紙ベースのやり方は古いのか。アンケートをお願いする際も必要性の伝え方が簡単すぎたのかもしれない。児童発達支援は丁寧に回答してくれる方が多いが、放デイは事業所を掛け持ちしている事もあり、大変さがどこにあるかを考え、項目数、文字数を減らし、自由記入欄を増やすなど簡略化できないかを検討する。各事業所で似たようなアンケートを求められるので、保護者も大変だと思われる。

事業所名 さくらんぼ

担当者 吉田 優美